

## 挨拶をしよう

目標：日本語で挨拶でき、平仮名を理解して読むことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	<p><b>1 教室で使う言葉の復習をする。</b></p> <p>① 指示に合わせて始めの挨拶を行う。 (例)「立ってください」「今から日本語の勉強を始めます」「礼」「お願いします」</p> <p>② 教室で使う言葉を復習する。 ・教室で使う言葉を言いながら、教師の動作をまねる。 (例)「立ちます」「座ります」 (例)「見ます」「聞きます」「読みます」「書きます」 ・教師の言葉だけを聞いて、動作する。 (例)「立ちます」「座ります」「見ます」「聞きます」「読みます」「書きます」</p>	<p>・授業の始まりと終わりの指示は、在籍学級と同じにする。</p> <p>・前回と同じように、教師と一緒に動作を付けながら復習させるとよい。</p>
20	<p><b>2 挨拶の練習をする。</b></p> <p>① 絵カードを見て挨拶の言葉を練習する。 ・「おはよう」「こんにちは」等</p> <p>② 自分の(母語)国での挨拶の言葉を発表する。</p> <p>③ 友達や教師と、挨拶のロールプレイゲームを行う。 ・「朝です」→「おはよう」 ・「給食を食べます」→「いただきます」等</p>	<p>★絵カード(場面) 『たのしい1ねんせい』【愛知県】の絵を有効に活用する。</p> <p>・いろいろな母語の児童生徒がいれば、お互いに挨拶を紹介し合う。</p> <p>・練習した挨拶は、教室に掲示をし、児童生徒がいつでも見られるようにする。</p>
15	<p><b>3 平仮名の練習をする。</b></p> <p>① 「あいうえおの歌」を、平仮名表を見て歌う。</p> <p>② 平仮名表を見ながら平仮名カードを並べる。</p>	<p>★平仮名表(1参照)</p> <p>・児童生徒への負担が大きくなるないように、例えば、「あ行」だけにするなど配慮する。</p>

凡例：・留意点 ★教材